

環境活動レポート
2008年度(2008年1月～2008年12月)

株式会社 **吉銘**

— 目 次 —

1. 環境方針	P. 1
2. 事業活動の概要	P. 2
3. 環境目標と活動の実績	P. 3
・実績の経過グラフ(CO2、廃棄物量、総排水量)	P. 4
4. 環境目標の達成評価	P. 5
5. サイト別の環境への取組状況および環境活動計画の内容と評価	
5-1. 本社・新住工場のCO2の削減	P. 6
5-2. 本社・新住工場の廃棄物削減	P. 7
5-3. 本社・新住工場の総排水量削減	P. 8
5-4. 田原本工場のCO2削減	P. 9
5-5. 田原本工場の廃棄物削減	P. 10
5-6. 田原本工場の総排水量削減	P. 11
5-7. 五條工場のCO2削減	P. 12
5-8. 五條工場の廃棄物削減	P. 13
5-9. 五條工場の総排水量削減	P. 14
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P. 15

1. 環境方針

< 基本理念 >

「大自然に感謝して、少しでも恩返しを」

< 行動指針 >

1. 大自然から受けた恩恵である木材を人間の知恵をもって最大限に余すことなく有効に利用し〈木を活かす企業〉として循環型の住みよい環境の実現を目指します。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境経営システムと環境パフォーマンスを自主的・継続的に改善できるように推進します。
 - ・二酸化炭素排出量の削減
 - ・廃棄物排出量の削減
 - ・総排水量の削減
3. 環境教育・訓練・社内広報活動の実施により、全ての従業員に環境方針を周知徹底すると共に、環境保全に関する知識・認識の向上を図ります。
4. 環境関連法令と当社が参加した協定等を遵守し、必要に応じて環境管理レベルの向上を図ります。

この環境方針は、社外の人にも公開します。

制定日 2005年 5月21日

改定日 2009年 2月13日

株式会社 吉銘

代表取締役社長 貝本 隆三

2. 事業活動の概要

①事業所名および代表者名

株式会社 吉銘
 本社(管理本部・新住工場)、田原本工場、五條工場
 代表取締役社長 貝本 隆三

②所在地

本社 奈良県吉野郡下市町大字新住1118
 田原本工場 奈良県磯城郡田原本町大字味間436
 五條工場 奈良県五條市島野町485番地

東京支店、札幌支店、福岡営業所、特販部(奈良県橿原市)は対象外です。

環境負荷の大きい製造工場については認証範囲を拡大しています。
 今後、営業所についても認証拡大を検討致します。

③環境保全関係の責任者および担当者連絡先

環境経営責任者	代表取締役社長 貝本 隆三
EA管理責任者 連絡先	本社 勝村 貴志 TEL : 0747-52-4066 FAX : 0747-52-4797 E-mail : hinkan@yoshimei.co.jp

④事業規模(2008年度)

資本金	7200万円
年商 (全社)	85.6億円
主要製品生産量(全社)	10452トン ・本社・新住工場:1700トン ・田原本工場:6329トン ・五條工場:2423トン
従業員 (全社) (サイト別)	129名 正社員 88名 パート他 41名 (平成20年12月現在) ・本社・新住工場:46名 ・田原本工場:34名 ・五條工場:22名 ・対象外サイト:27名
床面積	・本社・新住:13600m ² ・田原本工場:5811m ² ・五條工場:6337m ²

⑤事業内容

集成材の製造販売および住宅関連商品の販売

⑥沿革

昭和25年4月	貝本商店の創業 (創業者、現取締役相談役 貝本 輝司)
昭和28年4月	業界に先駆け集成材の製造販売開始(当社 元祖)
昭和40年4月	吉野銘木製造販売(株)に法人組織化
昭和45年1月	貝本木材工業(株)を新たに設立(株吉銘の前身)
昭和50年6月	株吉銘に社名変更
昭和52年7月	本社を橿原市に新築移転
昭和52年9月	株吉銘福山を設立
昭和55年9月	山陰営業所の開設
昭和58年8月	福岡営業所の開設
昭和58年9月	吉野郡大淀町に佐名伝工場を新設
昭和59年10月	岡山営業所の開設
昭和61年4月	吉野銘木製造販売(株)の集成材工場を製造部門として合併
昭和62年3月	東京支店の開設
平成 2年3月	資本金7200万円に増資
平成 5年9月	全自動別注造材プレカットライン完成
平成 6年2月	五條工場新設
平成 6年9月	札幌営業所開設
平成 7年2月	株東日本ウッドワークス中部設立
平成 9年1月	桜井工場新設
平成12年6月	ISO9002認証取得
平成14年4月	田原本工場新設
平成15年3月	貝本木業(上海)有限公司設立
平成15年4月	ISO9001取得
平成16年10月	本社を下市町新住に移転、製造部門と統合
平成18年3月	本社(管理本部・新住工場)でエコアクション21の認証を取得
平成20年3月	一部認証範囲を拡大(田原本工場および五條工場を追加)

3. 環境目標と活動の実績

環境目標の設定

①本社及び3工場合計

		2006年 (37期)	2008年	2009年	2010年
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO2/ 年)	2,048,626	1,938,000	1,917,514	1,897,028
			5.4%削減	6.4%削減	7.4%削減
廃棄物排出量	総量 (トン/年)	310	151	121	92
			51.4%削減	60.9%削減	70.4%削減
総排水量	総量 (m3/年)	19,869	16,571	16,372	16,173
			16.6%削減	17.6%削減	18.6%削減

②本社・新住工場

(新基準)

		2006年 (37期)	2008年	2009年	2010年
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO2/ 年)	612,131	555,203	549,082	542,960
			9.3%削減	10.3%削減	11.3%削減
廃棄物排出量	総量 (トン/年)	24	13.56	12.36	11.16
			43.5%削減	48.5%削減	53.5%削減
総排水量	総量 (m3/年)	6,963	4777	4707	4637
			31.4%削減	32.4%削減	33.4%削減

③田原本工場

(基準)

		2006年 (37期)	2008年	2009年	2010年
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO2/ 年)	565,989	521,842	516,182	510,522
			7.8%削減	8.8%削減	9.8%削減
廃棄物排出量	総量 (トン/年)	283	134	106	77
			52.7%削減	62.7%削減	72.7%削減
総排水量	総量 (m3/年)	7,829	6772	6694	6616
			13.5%削減	14.5%削減	15.5%削減

④五條工場

(基準)

		2006年 (37期)	2008年	2009年	2010年
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO2/ 年)	870,506	861,801	853,096	844,391
			1%削減	2%削減	3%削減
廃棄物排出量	総量 (トン/年)	3.3	3.27	3.23	3.20
			1%削減	2%削減	3%削減
総排水量	総量 (m3/年)	5,077	5026	4975	4925
			1%削減	2%削減	3%削減

活動の実績

①本社及び3工場合計

		2006年 (37期)	2007年 (38期)	2008年 (39期)
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2/年)	2,048,626	2,160,280	1,888,000
	生産量(トン)	11,139	10,711	10,452
	生産量当たり(kg-CO2/トン)	183.9	201.7	180.6
廃棄物排出量	総量(トン/年)	310	303	166
	生産量(トン)	11,139	10,711	10,452
	生産量当たり	0.028	0.028	0.016
総排水量	総量(m3/年)	19,869	16,786	17,120
	生産量(トン)	11,139	10,711	10,452
	生産量当たり(m3/トン)	1.784	1.567	1.638

②本社・新住工場

(新基準)

		2006年 (37期)	2007年 (38期)	2008年 (38期)
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2/年)	612,131	561,412	537,167
	生産量(トン)	2,373	1,900	1,700
	生産量当たり(kg-CO2/トン)	258.0	295.5	316.0
廃棄物排出量	総量(トン/年)	24	15	24
	生産量(トン)	2,373	1,900	1,700
	生産量当たり	0.010	0.008	0.014
総排水量	総量(m3/年)	6,963	4,832	5,587
	生産量(トン)	2,373	1,900	1,700
	生産量当たり(m3/トン)	2.934	2.543	3.286

③田原本工場

(基準)

		2006年 (37期)	2007年 (38期)	2008年 (38期)
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2/年)	565,989	543,370	552,879
	生産量(トン)	6,899	6,684	6,329
	生産量当たり(kg-CO2/トン)	82.0	81.3	87.4
廃棄物排出量	総量(トン/年)	283	275	135
	生産量(トン)	6,899	6,684	6,329
	生産量当たり	0.041	0.041	0.021
総排水量	総量(m3/年)	7,829	6,850	5,951
	生産量(トン)	6,899	6,684	6,329
	生産量当たり(m3/トン)	1.135	1.025	0.940

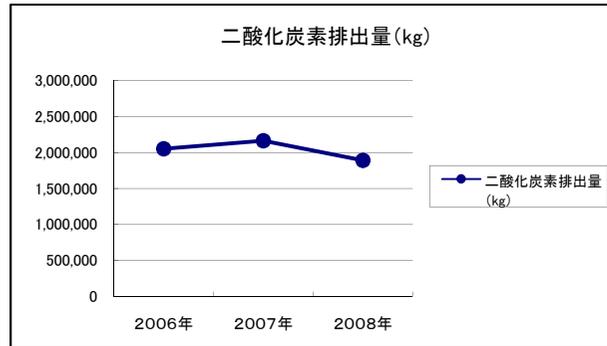
④五條工場

(基準)

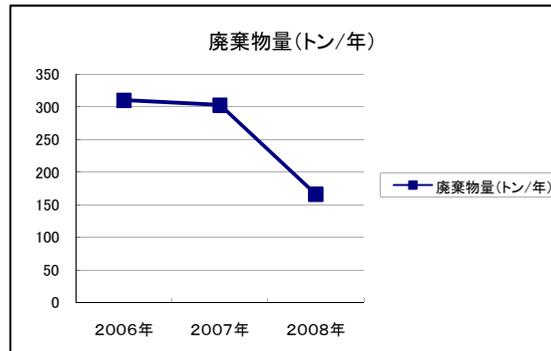
		2006年 (37期)	2007年 (38期)	2008年 (38期)
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2/年)	870,506	1,055,498	797,954
	生産量(トン)	1,867	2,127	2,423
	生産量当たり(kg-CO2/トン)	466.3	496.2	329.3
廃棄物排出量	総量(トン/年)	3.3	12.7	7.4
	生産量(トン)	1,867	2,127	2,423
	生産量当たり	0.002	0.006	0.003
総排水量	総量(m3/年)	5,077	5,104	5,582
	生産量(トン)	1,867	2,127	2,423
	生産量当たり(m3/トン)	2.719	2.400	2.304

実績の経過グラフ(CO₂、廃棄物量、総排水量)
 本社及び3工場(新住工場、田原本工場、五條工場)の合計量

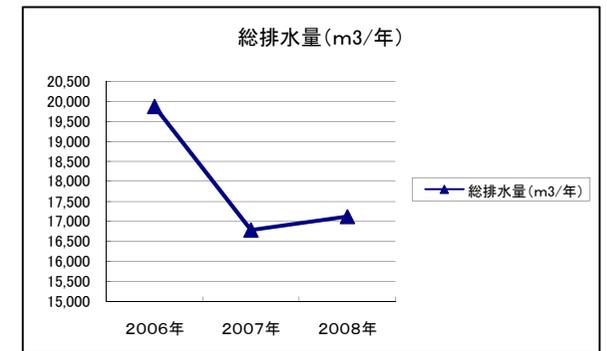
	2006年	2007年	2008年
二酸化炭素排出量(kg)	2,048,626	2,160,280	1,888,000



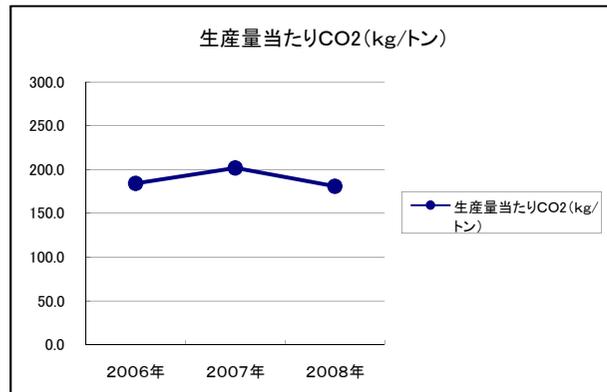
	2006年	2007年	2008年
廃棄物量(トン/年)	310	303	166



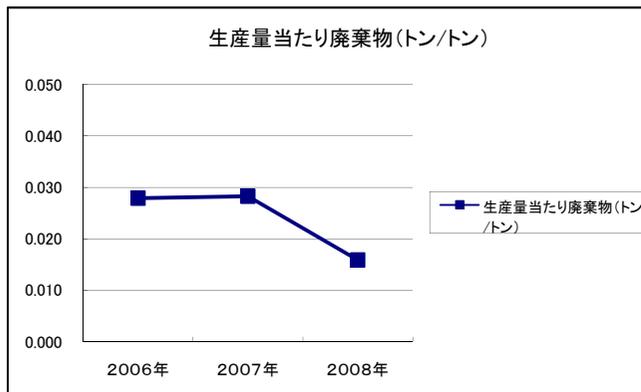
	2006年	2007年	2008年
総排水量(m ³ /年)	19,869	16,786	17,120



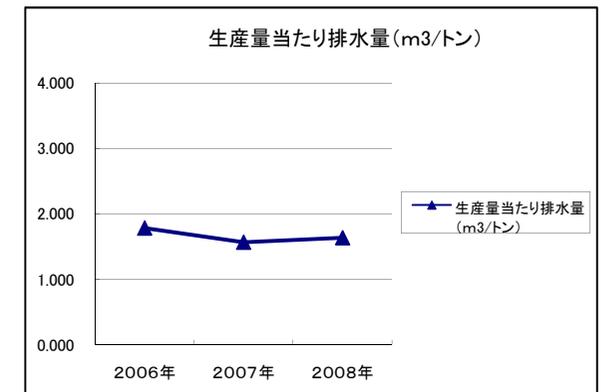
	2006年	2007年	2008年
生産量当たりCO ₂ (kg/トン)	183.9	201.7	180.6



	2006年	2007年	2008年
生産量当たり廃棄物(トン/トン)	0.028	0.028	0.016



	2006年	2007年	2008年
生産量当たり排水量(m ³ /ト)	1.784	1.567	1.638



4. 環境目標の達成評価

① 本社及び3工場合計

		(基準)		評価
		2006年 (37期)	2008年 目標 実績	
二酸化炭素排出量 (電力+化石燃料)	総量(kg-CO2/年)	2,048,626	1,888,000	総量で目標達成。 生産量当たりで2%削減。
	基準に対する削減率(%)		5.4%	
	生産量(トン)	11,139	10,452	
	生産量当たり(kg-CO2/トン)	183.9	180.6	
	基準に対する削減率(%)		1.8%	
廃棄物排出量	総量(トン/年)	310	166	ほぼ目標達成。 削減量大
	基準に対する削減率(%)		51.4%	
	生産量(トン)	11,139	10,452	
	生産量当たり	0.028	0.016	
	基準に対する削減率(%)		43.0%	
総排水量	総量(m3/年)	19,869	17,120	目標未達である が約10%削減。
	基準に対する削減率(%)		16.6%	
	生産量(トン)	11,139	10,452	
	生産量当たり(m3/トン)	1.8	1.6	
	基準に対する削減率(%)		8.2%	

② 本社・新住工場

		(新基準)		評価
		2006年 (37期)	2008年 目標 実績	
二酸化炭素排出量 (電力+化石燃料)	総量(kg-CO2/年)	612,131	537,167	総量において、 目標達成 生産量当りの排 出量でマイナス
	基準に対する削減率(%)		9.3%	
	生産量(トン)	2,373	1,700	
	生産量当たり(kg-CO2/トン)	258.0	316.0	
	基準に対する削減率(%)		-22.5%	
廃棄物排出量	総量(トン/年)	24	23.8	目標未達。基準 と同程度の廃棄 物排出量となっ た。
	基準に対する削減率(%)		43.5%	
	生産量(トン)	2,373	1,700	
	生産量当たり	0.010	0.014	
	基準に対する削減率(%)		-36.2%	
総排水量	総量(m3/年)	6,963	5,587	目標未達。総量 で20%削減され たが、生産量当 りではマイナ ス。
	基準に対する削減率(%)		31.4%	
	生産量(トン)	2,373	1,700	
	生産量当たり(m3/トン)	2.934	3.286	
	基準に対する削減率(%)		-12.0%	

③ 田原本工場

		(基準)		評価
		2006年 (37期)	2008年 目標 実績	
二酸化炭素排出量 (電力+化石燃料)	総量(kg-CO2/年)	565,989	552,879	目標未達。
	基準に対する削減率(%)		7.8%	
	生産量(トン)	6,899	6,329	
	生産量当たり(kg-CO2/トン)	82.0	87.4	
	基準に対する削減率(%)		-6.5%	
廃棄物排出量	総量(トン/年)	283.00	134.5	ほぼ目標達成。 木屑の単純焼却 を含んでいる。
	基準に対する削減率(%)		62.7%	
	生産量(トン)	6,899	6,329	
	生産量当たり	0.04	0.02	
	基準に対する削減率(%)		48.2%	
総排水量	総量(m3/年)	7,829	5,951	総量において、 目標達成 生産量当りの排 出量においても 改善されている
	基準に対する削減率(%)		13.5%	
	生産量(トン)	6,899	6,329	
	生産量当たり(m3/トン)	1.13	0.94	
	基準に対する削減率(%)		17.1%	

④ 五條工場

		(基準)		評価
		2006年 (37期)	2008年 目標 実績	
二酸化炭素排出量 (電力+化石燃料)	総量(kg-CO2/年)	870,506	797,954	総量において、 目標達成 生産量当りの排 出量においても 改善されている
	基準に対する削減率(%)		1.0%	
	生産量(トン)	1,867	2,423	
	生産量当たり(kg-CO2/トン)	466.26	329.32	
	基準に対する削減率(%)		29.4%	
廃棄物排出量	総量(トン/年)	3.30	7.41	目標未達成。理 由記載
	基準に対する削減率(%)		1.0%	
	生産量(トン)	1,867	2,423	
	生産量当たり	0.0018	0.0031	
	基準に対する削減率(%)		-73.0%	
総排水量	総量(m3/年)	5,077	5,582	目標未達成では あるが生産量当 りでは改善され ている。
	基準に対する削減率(%)		1.0%	
	生産量(トン)	1,867	2,423	
	生産量当たり(m3/トン)	2.72	2.30	
	基準に対する削減率(%)		15.3%	

5-1. 本社・新住工場のCO2の削減

① 購入電力削減による二酸化炭素排出量削減 (2006年度対比 削減目標8.8%)

PLAN 本社・新住工場では二酸化炭素排出量における購入電力の割合が高く(2008年度 約85%)、購入電力の削減が最も大きな課題である。

○生産性向上による購入電力の削減を図る

DO ○多品種少量生産に対応すべく切替時間の短縮を図る。

CHECK 活動の評価 ▲

項目	単位	2006年	2008年	削減率(%)
		(37期)	(39期)	
購入電力	(kWh)	1287760	1208869	6.1%
二酸化炭素排出量	(kg-CO2)	486773.3	456952.5	6.1%
生産量	(トン)	2373	1700	
二酸化炭素排出量/生産量	(kg-CO2/トン)	205.1	268.8	-31.0%

購入電力のみの比較においては6.1%の削減できた。
生産量当りの二酸化炭素排出量は31.0%マイナスとなった。

住宅着工の落ち込みに加え、和室の採用率も低下した為、生産量が2006年対比71.6%に落ち込んでいる。
特に化粧柱の受注減に伴い、造作材比率が上がり、生産量当りの二酸化炭素排出量が悪くなっている。

ACTION 購入電力による二酸化炭素排出量だけでなく、購入電力/生産量の比較においても目標を達成できるよう生産性を追及していく。

② 化石燃料使用量削減による二酸化炭素排出量削減 (2006年度対比 削減目標11.1%)

PLAN ○「エコドライブ」を推進し、アイドリングストップに努める。
○配送車両の走行距離と給油量を計測し、燃費を計算する。
○型式の古い燃費の悪い車両を廃車し、配送効率を上げる。

DO ○燃費の測定と運転手への省エネ運転の励行。
○配送車両の配送エリアの変更による使用燃料の削減。
○配送車両の集約と車両の入れ替え

CHECK 活動の評価 ○

項目	単位	2006年	2008年	削減率(%)
		(37期)	(39期)	
二酸化炭素排出量	(kg-CO2)	125357	80214	36.0%
売上高	(万円)	250187	145275	
二酸化炭素排出量/売上高	(kg-CO2/万円)	0.50	0.55	-10.2%

化石燃料使用による二酸化炭素排出量は36.0%削減できた。
売上高比率による二酸化炭素排出量は10.2%マイナスとなった。
トラックの台数を減らし配送効率も向上できた。
来期は配送車両1台入れ替えの予定

ACTION 更なる省エネ運転・効率配送を目指し改善に努める。

5-2. 本社・新住工場の廃棄物削減

廃棄物の分別による再資源化の推進(2006年度対比 削減目標48.5%)

PLAN 廃棄物を分別・再資源化し廃棄物を削減する。
 ○ダンボールの再資源化
 ○鉄材の再資源化
 ○廃プラの再資源化
 事務所関連廃棄物の削減
 ○工場内配布手配書等の書類は裏紙を使用する。
 ○機密文書の再資源化

CHECK 活動の評価 ×

項目		単位	2006年 (37期)	2008年 (39期)	削減率(%)
廃棄物	事務所(紙)	(トン)	0	0	
	工場(ダンボール)	(トン)	0	0	
	工場(鉄)	(トン)	0	0	
	廃プラ	(トン)	4.05	0	100.0%
	工場関連(その他)	(トン)	20.4	23.76	-16.5%
廃棄物計		(トン)	24.4	23.76	2.6%
生産量		(トン)	2373	1700	
廃棄物量/生産量		(トン/トン)	0.010	0.014	-35.9%

※事務所の一般廃棄物の排出は非常に僅かであるので排出量には算入していません

DO ○ダンボールは分別し、古紙再生業者に引取実施
 ○鉄材を再生業者へ持込
 ○輸入梱包材の木パレットを釘のない部分を切断し、再資源化した。
 ○事務書類は産業廃棄物として排出していたが、業者にて破碎処理し、再生紙原料にする。
 ○廃プラを圧縮し、リサイクル業者に持ち込む。
 ○製造工程で発生する木材屑(プレナー屑等)は自社内のボイラーの燃料として熱回収及び循環資源として再生利用している。

○ 廃棄物量で2.6%の削減できましたが目標未達。
 (前年度までの削減実績38.5%から35.9マイナス)
 主な原因としては
 輸入梱包パレットの処理しきれずに2.4トンが廃棄物扱いになってしまいました。
 焼却灰については排出のタイミングで約2トン程度は来期の分の上乗せとなっています。
 工場の3S活動による廃棄物が増加しました。
 生産量当りの廃棄物量は35.9%マイナスとなりました。
 紙およびダンボールは100%リサイクル(一部熱回収)を継続できた。
 鉄については複合部材を除く鉄単体では100%リサイクルを継続できた。
 (工場関連(その他)項目に鉄の複合部材も含んでいます。)

○ 廃プラのリサイクルについて

2007年度排出量1.9tに対し2008年度は100%リサイクルできた。

ACTION 輸入梱包パレットの資源化を確実に実行する
 今まで資源化出来ていなかった物について再度見直しを検討し削減に努める。

5-3. 本社・新住工場の総排水量削減

総排水量の削減(2006年度対比 削減目標31.4%)

PLAN ○ボイラーの給水装置の改善
○事務所節水の徹底

DO ○ボイラーの給水管に給水制御装置の取付けた。
○漏水の点検を実施した。

CHECK 活動の評価 ×

項目	単位	2006年	2008年	削減率(%)
		(37期)	(39期)	
総排水量	(m3)	6963	5587	19.8%
生産量	(トン)	2373	1700	
総排水量/生産量	(m3/トン)	2.9	3.3	-12.0%

総排水量は19.8%削減できたが目標には未達。
総排水量/生産量についても12.0%マイナスとなった。

ACTION 来年度はボイラーの燃料の木屑を再利用に回し、余分な蒸気を発生させない様にする。
事務所の節水を徹底し、削減に努める。

5-4. 田原本工場のCO2削減

① 購入電力削減による二酸化炭素排出量削減 (2006年度対比 削減目標8.0%)

PLAN 田原本工場は二酸化炭素排出量における購入電力の割合が高く
(2008年度 約92%)、購入電力の削減が最も大きな課題である。
○生産性向上による購入電力の削減を図る
○電灯の効率利用を図る

DO ○機械の生産性を上げ、生産の効率化を図る。
○電灯の節電を実施

CHECK 活動の評価 ×

項目	単位	2006年	2008年	削減率(%)
		(37期)	(39期)	
購入電力	(kWh)	1360201	1339078	1.6%
二酸化炭素排出量	(kg-CO2)	514156	506171.5	1.6%
生産量	(トン)	6899	6329	
二酸化炭素排出量/生産量	(kg-CO2/トン)	74.5	80.0	-7.3%

購入電力のみの比較においては1.6%削減できたが目標未達。
二酸化炭素排出量/生産量の比較においても7.3%マイナスとなった。

ACTION 生産体制を見直し、購入電力削減に努める。

② 化石燃料使用量削減による二酸化炭素排出量削減 (2006年度対比 削減目標6.1%)

PLAN ○「エコドライブ」を推進し、アイドリングストップに努める。
○省エネ運転を励行する。

DO ○朝礼等での啓蒙
○フォークリフトに啓蒙表示

CHECK 活動の評価 ◎

項目	単位	2006年	2008年	削減率(%)
		(37期)	(39期)	
二酸化炭素排出量	(kg-CO2)	51833	46708	9.9%
生産量	(トン)	6899	6329	
二酸化炭素排出量/生産量	(kg-CO2/トン)	7.51	7.38	1.8%

化石燃料使用による二酸化炭素排出量は9.9%削減できた。
生産量あたりの二酸化炭素排出量についても1.8%削減できた。
フォークリフトの台数を削減しました。

ACTION 更なる省エネ運転を目指す。

5-5. 田原本工場の廃棄物削減

廃棄物の分別による再資源化の推進(2006年度対比 削減目標52.7%)

PLAN 廃棄物を分別・再資源化し廃棄物を削減する。
 ○鉄材の再資源化
 ○廃プラの再資源化
 事務所関連廃棄物の削減
 ○工場内配布手配書等の書類は裏紙を使用する。

CHECK 活動の評価 ○

項目	単位	2006年	2008年	削減率(%)	
		(37期)	(39期)		
廃棄物	木材(プレナー屑)	(トン)	252.6	117.9	53.3%
	工場(鉄)	(トン)		0	
	廃プラ	(トン)	30.4	0	45.5%
	工場関連(その他)	(トン)		16.56	
廃棄物計		(トン)	283	134.46	52.5%
生産量		(トン)	6899	6329	
廃棄物量/生産量		(トン/トン)	0.041	0.021	48.2%

※事務所の一般廃棄物は工場関連(その他)に含まれています。

DO ○ダンボールは分別し、古紙再生業者に引取実施
 ○鉄材を再生業者へ持込
 ○廃プラを圧縮し、リサイクル業者に持ち込む。
 ○製造工程で発生する木材屑(プレナー屑等)は自社内のボイラーの燃料として熱回収及び循環資源として再生利用している。
 ○焼却炉での木屑の単純焼却量を減らし、再生利用に回す。

○ 廃棄物量で52.5%削減できほぼ目標達成できました。
 生産量あたりの廃棄物量も48.2%削減することが出来ました。
 焼却炉の運用について見直し、単純焼却分の木屑が資源化できた。

ACTION 木材(プレナー屑)のリサイクルをさらに推し進める。

5-6. 田原本工場の総排水量削減

総排水量の削減(2006年度対比 削減目標13.5%)

PLAN ○人工乾燥作業の生産性向上
○事務所節水の徹底

DO ○夏・冬で蒸気配管バルブの開閉を見直し実施
○ボイラーの運転時間を夏・冬で見直し実施
○人工乾燥に使用していた蒸気をボイラーの給水タンクにもどす

CHECK 活動の評価 ◎

項目	単位	2006年	2008年	削減率(%)
		(37期)	(39期)	
総排水量	(m3)	7829	5951	24.0%
生産量	(トン)	6899	6329	
総排水量/生産量	(m3/トン)	1.1	0.9	17.1%

総排水量は24.0%削減でき目標達成できた。
総排水量/生産量についても17.1%改善できた。

ACTION 冬の工場保温に使用している蒸気のドレン回収をすることでボイラー使用水の新規給水量を削減する。

5-7. 五條工場のCO2削減

① 購入電力削減による二酸化炭素排出量削減 (2006年度対比 削減目標1.0%)

- PLAN 五條工場では二酸化炭素排出量における購入電力の割合は約48%(2008年度)
○生産性向上による購入電力の削減を図る
- DO ○機械の生産性を上げ、生産の効率化を図る。
○電灯の節電を実施
- CHECK 活動の評価 ◎

項目	単位	2006年	2008年	削減率(%)
		(37期)	(39期)	
購入電力	(kWh)	1083903	975596	10.0%
二酸化炭素排出量	(kg-CO2)	409715	368775	10.0%
生産量	(トン)	1867	2423	
二酸化炭素排出量/生産量	(kg-CO2/トン)	219.5	152.2	30.6%

購入電力のみの比較においては10.0%削減、目標達成できた。
生産量あたりの二酸化炭素排出量も30.6%削減されている。

今年度5月よりパネル材の生産設備を高周波プレスからコールド
プレスに変更したことで購入電力量が大きく削減できた。

- ACTION 来期は新事業に開始に伴ない新規設備が追加され電力使用量の増加見込みであるが
各生産設備の生産性を上げることで生産量あたりの二酸化炭素排出量を削減する。

② 化石燃料使用量削減による二酸化炭素排出量削減 (2006年度対比 削減目標1.0%)

- PLAN ○「エコドライブ」を推進し、アイドリングストップに努める。
○省エネ運転を励行する。
○灯油ボイラーによるラミナの人工乾燥の効率化を図る。
- DO ○朝礼等での啓蒙
○フォークリフトに啓蒙表示
○灯油ボイラーによる人工乾燥方法の変更を検討
- CHECK 活動の評価 ◎

項目	単位	2006年	2008年	削減率(%)
		(37期)	(39期)	
二酸化炭素排出量	(kg-CO2)	460791	429179	6.9%
生産量	(トン)	1867	2423	
二酸化炭素排出量/生産量	(kg-CO2/トン)	246.81	177.13	28.2%

化石燃料使用による二酸化炭素排出量は6.9%削減、目標達成
生産量あたりの二酸化炭素排出量においても28.2%削減して

- ACTION 人工乾燥の前に天然乾燥を十分することでボイラーの
灯油使用量を削減する。

5-8. 五條工場の廃棄物削減

廃棄物の分別による再資源化の推進(2006年度対比 削減目標1.0%)

PLAN 廃棄物を分別・再資源化し廃棄物を削減する。
 ○鉄材の再資源化
 ○廃プラの再資源化
 事務所関連廃棄物の削減
 ○工場内配布手配書等の書類は裏紙を使用する。

CHECK 活動の評価 ×

DO ○ダンボールは分別し、資源化する。
 ○鉄材を再生業者へ持込
 ○廃プラをリサイクル業者に引き取ってもらう。
 ○製造工程で発生する木材屑(プレナー屑等)は自社内のボイラーの燃料として熱回収及び循環資源として再生利用している。

項目		単位	2006年 (37期)	2008年 (39期)	削減率(%)
廃棄物	工場(鉄)	(トン)		0	
	廃プラ	(トン)	3.3	0	-124.5%
	工場関連(その他)	(トン)		7.41	
廃棄物計		(トン)	3.3	7.41	-124.5%
生産量		(トン)	1867	2423	
廃棄物量/生産量		(トン/トン)	0.0018	0.0031	-73.0%

※事務所の一般廃棄物の排出は非常に僅かであるので
 排出量には算入していません

- 廃棄物量で124.5%マイナスとなりました。
 生産量あたりの廃棄物量も73.0%マイナスとなりました。
 (補足説明)
 五條工場の基準年(2006年)の廃棄物排出量は本来2006年度に排出されるはずの廃棄物4.26tが2007年に処理されたため、本来より低い数値となっている。
 (補正後の総量の削減率は2%、生産量当りの削減率は22.5%である。)

ACTION 来期はパレット等工場関連の廃棄物の資源化を進める。

5-9. 五條工場の総排水量削減

総排水量の削減(2006年度対比 削減目標1.0%)

五條工場ではラミナ(製品を構成する板)を乾燥するためのボイラーに水を使用している。
(※ラミナとは製品を構成する板材のこと)

PLAN ○人工乾燥作業の生産性向上
○事務所節水の徹底

DO ○水道水使用量を毎月確認する。

CHECK 活動の評価 △

項目	単位	2006年	2008年	削減率(%)
		(37期)	(39期)	
総排水量	(m3)	5077	5582	-9.9%
生産量	(トン)	1867	2423	
総排水量/生産量	(トン/トン)	2.7193	2.3038	15.3%

※ラミナとは製品を構成する板材のこと

総排水量は9.9%マイナスとなった。
生産量あたりの総排水量は15.3%改善できました。

ACTION 人工乾燥の前に天然乾燥を十分することでボイラー使用水の削減および枚数当りの使用水量を改善をする。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する環境関連法規は次の通りです

①本社・新住工場

環境関連法	主要な設備等
大気汚染防止法	焼却炉
騒音規制法	木材加工機 コンプレッサー
振動規制法	コンプレッサー
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物
ダイオキシン類対策特別措置法	焼却炉
消防法	木材加工品 木屑

②田原本工場

環境関連法	主要な設備等
大気汚染防止法	ボイラー
騒音規制法	木材加工機 コンプレッサー
振動規制法	コンプレッサー
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物
PRTR法	ホルムアルデヒド
ダイオキシン類対策特別措置法	焼却炉
消防法	木材加工品 木屑

③五條工場

環境関連法	主要な設備等
大気汚染防止法	ボイラー
騒音規制法	木材加工機 コンプレッサー
振動規制法	コンプレッサー
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物
消防法	木材加工品 木屑

関係当局より違反の指摘はありません。
当社で自主的に見直した結果、一部に届出の不備がありましたので、申請手配し、万全を期すよう努めています。